

市民が支える総合型地域スポーツクラブモデル —NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブの方法—

スポーツクラブマネジメントコース
5006A327-1 榎原孝彦

研究指導教員： 間野義之助教授

■ NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブの経緯

ここでは、平成6年度に提唱された「成岩スポーツタウン構想」から現在のNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブまでの一連の経緯を概観し、プロダクトとしての総合型地域スポーツクラブから事業主体としての総合型地域スポーツクラブへの展開を検証する。

■ NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブのクラブハウス

ここでは、半田市が平成14年12月に成岩地区学校・地域共同利用施設として竣工させた成岩地区総合型地域スポーツクラブハウス(通称 WARAWA WING)を、その構想の段階から、総合型地域スポーツクラブのクラブハウスとしての運用を想定した設置条例の特色、さらにNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブによる経営スキームと経営の現状までについて検証する。

指定管理者制度は、地域住民主体の総合型地域スポーツクラブの発展にとって追い風だとする見方が一般的な風潮であるが、行政側の環境設定次第ではその逆の結果になるし、むしろその可能性のほうが実際には大きいと私は考えている。ここでは、総合型地域スポーツクラブの特徴を引き出す施設設置条例等の内容について検討したい。

また、同施設はNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブが指定管理者に任意指定されているが、平成16、17年度におけるソシオ成岩スポーツクラブへの委託、及び平成18年度からの指定管理料に関する半田市側のコスト

負担が委託内容やその他の類似の半田市内スポーツ施設との比較に照らして適当なものであったかを改めて検証することとし、クラブがもたらす市民のベネフィットに見合った適切なコスト負担を行政側に求めるロジックを導きたいと考える。

■ NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブの中期事業計画

NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブが目指す目標に向けた中期事業計画書(5ヵ年)の方向を述べる。

平成8年に設立された同クラブの歴史は次のように区分される。

① 「クラブ創設期(平成14年度まで)」

この段階は中学校部活動をダウンサイズしつつ地域に移管し、その活動を運用してプロダクトとしての総合型地域スポーツクラブを形成してきたプロセスといえる。

② 「クラブ法人化とクラブハウスの獲得期(平成18年度まで)」

この段階はプロダクトとしての総合型地域スポーツクラブを、事業の主体として機能する組織にリストラクトしたプロセスだといえる。

平成19年度からの事業計画は、これまでの経緯を踏まえ、総合型地域スポーツクラブの発展を大きく左右する学校諸活動との関係などを将来的な課題としつつ、より安定した1億円規模の経営基盤の確立を目指したビジネスモデルを提案したい。